

A-69 獣・鳥因類の料理により嘔吐を催す極端な偏食者の一例について  
静岡女子短大(栄養) 柴田長夫 ○内藤初枝

目的 我々は従来から食欲と栄養の関連につき研究しているが、今回は肉・生魚・生卵等を見ると吐き気を催し、その場で堪え難い苦痛を抱き社会生活が不安定であることを主訴とした極端な偏食者の一例につき、偏食への心理作用、偏食開始後の食事摂取状況等につき追求めたので、ここに報告する。

方法 当人の主訴、家族歴、生活歴、既往歴、一般及び神経学的諸検査、尿、屎、血液一般検査、血液生化学、腎機能、内分泌機能の他、特に食事内容については問診、2週間以上の食事誌、当人の家庭内調査等に重点をおいた。

結果 1. 偏食の原因は8才当時、雛羽のニワトリの首を切断、その時の多量出血を目撃した。そして特にその一羽は首がはいまま出血しつつ十数羽走っていたのを目撃したことである。

2. 食事内容は、赤血球を含む動物性食品は一切食べられない。魚は干物、イカ、タコ、貝等ハモチアインを含む物は食べられる。野菜・くだもの・香辛料は好物で大量にとる。

3. 健康状態は良好、身長168cm、体重64kgですべての検査所見は正常だった。

4. 対社会的には、家庭内では家人とは別の食事内容であり、勤務先での昼食は、周囲の人の食物に苦痛を感じながら日に触れないように努力している。当人はめん類を2-3人前摂る。以上現在の生活では健康に支障はみられないが、社会生活の点で不便なことが多いため、偏食の矯正に努力を重ねている。